科学研究費助成事業（基盤研究（Ｓ））中間評価

課題番号	18H05219	研究期間	平成３０(2018)年度 ～令和４(2022)年度
研究課題名	シナ＝チベット諸語の歴史的展開と言語類型地理論	研究代表者 （所属・職） （令和２年３月現在）	池田　巧 （京都大学・人文科学研究所・教授）

【令和２(2020)年度　中間評価結果】

評価		評価基準
	A+	想定を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる
○	A	順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる
	A－	概ね順調に研究が進展しており、一定の成果が見込まれるが、 一部に遅れ等が認められるため、今後努力が必要である
	B	研究が遅れており、今後一層の努力が必要である
	C	研究が遅れ、研究成果が見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である

（意見等）

本研究は、東南アジアから東アジアの広域に帯状に分布するシナ＝チベット諸語と漢語方言の多様性と連続性、その歴史的変化を解明するために、音韻・語彙・文法の類型構造の比較分析を進めるプロジェクトである。

若手を含む多数の研究協力者と連携しながら、現地調査によって未記述言語などの一次資料の収集に取り組み、シナ＝チベット諸語の未記述言語の電子化、データ化を進めつつ、チベット言語成立の研究、民族文字文献の研究、古代漢語の研究、漢語方言の研究など、所期の研究計画を着実に実施し、国際学会での報告や論考出版による研究成果の発表も順調に進めており、期待どおりの成果が見込まれる。今般の新型コロナウイルス感染症の感染拡大の状況等を踏まえ、今後は各地の収集資料を有機的に連結するために、カリフォルニア大学の STEDT(Sino-Tibetan Etymological Dictionary and Thesaurus)プロジェクトとの連携や言語地図作成を含む統合索引の整備、並びにウェブ公開を着実に実施し、通言語的比較分析を進めて最終目標である言語類型地理論の改良に到達することを期待する。